

# 公益社団法人計測自動制御学会 2026年度（令和8年度）事業計画書

公益社団法人第16期 通算第65期  
2026年（令和8年）1月1日～12月31日

## 目 次

I. 2026年度事業計画	
1. SICE ミッションと基幹事業 .....	1
2. SICE 中期的課題と事業計画 .....	2
II. 2026年度事業計画付属明細書	
1. 各組織事業計画.....	3

# SICE®

2025年（令和7年）12月

公益社団法人計測自動制御学会

東京都千代田区神田小川町1-11-9 金子ビル4階

電話 (03) 3292-0314

FAX (03) 3292-3145

URL <https://www.sice.jp/>

# I. 2026 年度事業計画

## 1. SICE ミッションと基幹事業

2025 年度に理事会で策定された「SICE ミッションと基幹事業」を以下に示します。

## SICE ミッションと基幹事業

### ミッションステートメント

現代社会における「さいす学（計測・制御・SI・知能・産業・ライフ・システム・情報・社会などの調和的学術領域）」の発信中核学会として、

- ① 諸分野を横断して知を究め、新しい価値を創造し、
- ② 関連分野・産官学のハブとなり、発信・連携することで、社会的課題の抽出・解決に貢献する。

### 学会基盤の強化：

「さいす学」を発信することにより構築する本学会の存在意義を基底に据えた上で、根幹であるカンファレンス開催と論文出版を基盤とする学術活動を再強化する。更に、会員数減少等の環境変化に応じて財務構造と運営基盤を改革し、学会運営・事務局体制の効率化と、学会の魅力化・学会内連携の活性化の両立を進める。

### 社会貢献：

「さいす学」に関する学術及び技術の進歩発達を図り、文化の向上並びに産業の発展に寄与する。特に「さいす学」を活用したフィジカルAI の社会実装をリードする。そのために、分野横断を推進し SICE 発信の新たな価値を創造する。その施策として、国内外の若手等の多様な人材を育成し、卓越した成果を創出し続ける場を構築する。

### 国際貢献：

アジアそして世界に向けて、「さいす学」分野に関わる様々な知の交流の活性化を図るとともに、研究・技術成果を発信する。その施策として、SICE Festival with Annual Conference(SICE\_FES)開催や英文論文誌発行を進め、更に標準化の推進において国際的役割を果たす。

### 会員への貢献：

「さいす学」に関する会員の活動を支えるために、会員に対する情報提供、交流・議論する場の提供、会員活動に対する表彰に取り組む。

### 学協会・産業界への貢献：

SICE インダストリを加速し、国内外の学協会および産業界との連携活動を強化することで「さいす学」とフィジカル AI の社会実装に向けたプラットフォームを構築する。

### 基幹事業

- ・ SICE\_FES(Festival with Annual Conference)開催
- ・ 部門主催講演会、支部主催講演会等の開催
- ・ 部門・支部内各種事業および研究会活動
- ・ 各種セミナー・展示会・見学会開催
- ・ 関連国際会議、国内会議、展示会の共催・協賛
- ・ 国内外学協会・工業会等との連携
- ・ 学会誌、論文集発行
- ・ web 等による情報発信
- ・ 技術者教育と資格認定
- ・ 標準化活動
- ・ 各種学会賞贈呈
- ・ 産学連携
- ・ ダイバーシティ推進による若手・女性研究者の活動支援・活性化
- ・ その他

## 2. SICE 中期的課題と事業計画

2025 年度に理事会で策定された「SICE 中期的課題と事業計画」を以下に示します。

	中期的課題	事業計画	主担当組織	副担当組織
学会基盤の強化	0 そもそも SICE とは？	0.1 SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。	全組織	
	1. 柔軟な組織間連携などによる学会活動の活性化	1.1 SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画	カンファレンス委、部門、支部	部門協、支部協
		1.2 特定費用準備資金の有効活用	財務委	部門協、支部協
		1.3 部門・支部のあり方についての検討	総務委	部門協、支部協
	2. 講演会活動の FES 化による充実	2.1 カンファレンス活動(FES、部門大会、部会研究会、支部大会等)の全体調整と FES 化を見据えた見直し	カンファレンス委、部門、支部	総務委
	3. 出版活動の充実	3.1 和文論文誌と英文論文誌の位置づけおよび編集方針の見直しによる投稿数拡大、和文論文誌のデジタル化	総務委、和論委、英論委	
		3.2 会誌のあり方の見直し、デジタル化の推進	総務委、会誌出版委	
4. 緩急ある学会運営のスリム化と効率化	4.1 理事会、直轄委員会、事務局運営業務のスリム化と効率化と理事の任期の柔軟化	総務委		
	4.2 ウェブ更新効率化による情報発信の促進	メンバー委	総務委、企画委	
	4.3 学会運営ワークフローの DX 化検討	総務委		
5. SICE の財務基盤の強化	5.1 年間収支のモニタリング・分析に基づく、予算立案プロセス改善と中長期施策の立案、デジタル化の影響の見極め	財務委	総務委	
6. 継続事業とコンプライアンス	6.1 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守	全組織		
社会貢献	7. SICE が主導する「さいす学」の発信と Society 5.0、SDGs 等社会的課題への SICE の取り組み	7.1 デジタル情報発信力の強化(オンラインイベント、ハイブリッドイベント、デジタル教育コンテンツ制作など)	総務委	部門協、支部協 メンバー委
		7.2 さいす学、フィジカル AI の社会実装に向けたコミュニティづくり(SICEFES、部門大会、会誌等での新規企画)	総務委	カンファレンス委、 会誌出版、各部門・ 支部、メンバー委
		7.3 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信	総務委、メンバー委	各部門、支部
		7.4 社会貢献を推進する表彰制度の実施	総務委、学会賞委	メンバー委
国際貢献	8. SICE による日本独自の「さいす学」の発信と SICE の国際性向上	8.1 SICE_FES を通じた SICE 国際プレゼンスのさらなる向上の志向(裾野の広がりや質の高さを両立する場の形成)	カンファレンス委	総務委
		8.2 SICE が主催、共催する国際会議、および招聘/現地組織する国際会議(SICE FES 202x、IFAC、IMEKO、IEEE 関連行事)への開催支援	カンファレンス委	部門協、担当部門
		8.3 英文論文集の国際的評価基準(Citation Index, Impact Factor)獲得へ向けた活動の継続	英文論文委	総務委
		8.4 国際標準化活動の促進および表彰	インダストリ委	各部門、支部
会員への貢献	9. 会員への情報発信と教育支援	9.1 さいす学とフィジカル AI に関する SICE 企画	メンバー委	インダストリ委
		9.2 若手及び中堅会員への活動支援の実施(表彰制度、会員情報の整備及びそれを活用した支援)	総務委、学会賞委	メンバー委
		9.3 教材(理科、制御)の提供、進路相談ならびに資料の提供	メンバー委	総務委
		9.4 高校生の SICE イベントへの参加、ジュニア会員の創設	メンバー委	総務委
	10. 企業会員のための施策の強化	10.1 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し	論文委、カンファレンス委、部門協	インダストリ委
		10.2 SICE エグゼクティブサロンの継続	インダストリ委	総務委
		10.3 Wagora 活動の継続	インダストリ委	総務委
		10.4 SICE FES/部門大会におけるチュートリアル活性化	カンファレンス委、部門協	メンバー委
		10.5 地方活性化の検討(非会員地元企業との連携、など)	メンバー委、支部協	支部、カンファレンス委
	学協会産業界への貢献	11. 工業会との柔軟な連携強化	11.1 他団体(JEMIMA, NECA)との連携セミナー企画	インダストリ委
11.2 ニューインダストリ分野(知能化モビリティ・ロボット等)の企画推進			インダストリ委	部門協
12. 学協会との柔軟な連携強化		12.1 フィジカル AI 分野に関する他学協会との新規企画	インダストリ委	部門協
13. 見えない壁の無効化によるダイバーシティ推進	13.1 SICE Diversity and Inclusion Activity (SICE-DIA) の運営、啓蒙や情報発信の企画・実施(会誌特集号の検討)	メンバー委	総務委	

## Ⅱ. 2026年度事業計画付属明細書

### 1. 単年度事業計画（2026年）

各委員会、部門、支部が策定した「2026年度事業計画（・実施報告）」を以下に示します。  
（現役職で作成）

番号	組織名	担当理事、部門長、支部長
01	総務委員会	坂東 麻衣 委員長、 小松 真弓 副委員長、西尾 唯 副委員長
02	財務委員会	小倉 秀樹 委員長、原田 豊 副委員長
03	企画委員会	安井 裕司 委員長、 坂東 麻衣 副委員長、小松 真弓 副委員長
04	学会賞委員会	三平 満司 委員長、大串 浩司 副委員長
10	会誌出版委員会	小木曾 公尚 委員長、来海 暁 副委員長
11	和文論文集委員会	亀崎 允啓 委員長、永原 正章 副委員長
12	英文論文集委員会	永原 正章 委員長、亀崎 允啓 副委員長
13	カンファレンス委員会	佐々木 毅 委員長、青山 忠義 副委員長
14	インダストリ委員会	安井 裕司 委員長、手塚 信一郎 副委員長
15	メンバー委員会	小野 功 委員長、恩田 佳則 副委員長
30	部門協議会	榊原 一紀 議長、北田 宏 副議長
31	計測部門	大串 浩司 部門長
32	制御部門	伊藤 博 部門長
33	システム・情報部門	小林 祐一 部門長
34	システムインテグレーション部門	平田 泰久 部門長
35	産業応用部門	澤田 満 部門長
36	ライフエンジニアリング部門	田中 慶太 部門長
50	支部協議会	池田 篤俊 議長、河合 宏之 副議長
51	北海道支部	花島 直彦 支部長
52	東北支部	張山 昌論 支部長
53	中部支部	坂本 登 支部長
54	北陸支部	伊藤 恒平 支部長
55	関西支部	三輪 祥太郎 支部長
56	中国支部	笠 展幸 支部長
57	四国支部	前山 祥一 支部長
58	九州支部	水本 郁朗 支部長

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	総務委員会	担当	坂東委員長 小松副委員長、西尾副委員長
-----	-------	----	------------------------

2026 年度事業計画 (本組織担当分)
<p>0) SICE の存在意義の確認と「さいす学」の定義(0)</p> <p>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定(2,3,5,8)</p> <p>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化(1,9,10,11,12,13)</p> <p>3) 理事会・社員総会の適切な運営(4)</p> <p>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化(4)</p> <p>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の実施とコンプライアンスの遵守(3,4,6,7)</p> <p>6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口(11,12)</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p><b>0) 「さいす学」とフィジカル AI の展開</b> 2025 年度に議論し、定義し、発信し始めた「さいす学」をさらに強化・発展させる。また、フィジカル AI を SICE の強みとしてさいす学に関連させて学会内外にアピールする。</p> <p><b>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定</b> 財務、出版、会議開催（カンファレンス）の状況を適宜把握し、短期的な計画の議論や意思決定を総務委員会にて行う。 判断を行う上で財務的な影響に重点を置き、判断根拠となる将来予測に必要なデータの集積を行う。</p> <p><b>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化</b> 各委員会の理事等とのテーマを設定した議論、部門協議会への出席、支部協議会への総務理事の出席等を通して委員会活動、部門活動、支部活動を把握する。必要に応じて規程改正の共同提案等を行い、SICE 内の活動の活性化を図る。</p> <p><b>3) 理事会・社員総会の適切な運営</b> 上記の 1) 2) の議論を踏まえ、理事会において重要な経営判断ができるよう、効率的に、かつ適切に運営を行う。3 月に開催される社員総会を適切に運営する。</p> <p><b>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化</b> ・事務局員に対するフォロー ・シニア職員退職に伴う事務局員の業務分担及び業務量の適性化 ・事務局員とのコミュニケーション向上</p> <p><b>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守</b></p>	<p>●1～6 月</p>

会誌編集委員会と連携し、2026年1月からの会誌電子ブックの正式公開と和文論文誌の電子化を推進する。また、Industry 委員会／メンバー委員会／SICE-DIA の活動と連携して、SICE 内の各種活動を把握して活動全体の合理化を行う。活動の実績が失われることなくアクセス可能とするためにデジタル化・アーカイブ化を進める。さらに、学会運営を効率化するために学会運営ワークフローのDX化を検討する。全ての活動においてコンプライアンスを遵守する。

**6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口**

会長・副会長の補佐を行う。他学協会との連携の際の窓口を務める。

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p><b>0) 「さいす学」とフィジカル AI の展開</b>  2025 年度に議論し、定義し、発信し始めた「さいす学」をさらに強化・発展させる。また、フィジカル AI を SICE の強みとしてさいす学に関連させて学会内外にアピールする。</p> <p><b>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定</b>  財務、出版、会議開催（カンファレンス）の状況を適宜把握し、短期的な計画の議論や意思決定を総務委員会にて行う。  判断を行う上で財務的な影響に重点を置き、判断根拠となる将来予測に必要なデータの集積を行う。</p> <p><b>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化</b>  各委員会の理事等とのテーマを設定した議論、部門協議会への出席、支部協議会への総務理事の出席等を通して委員会活動、部門活動、支部活動を把握する。必要に応じて規程改正の共同提案等を行い、SICE 内の活動の活性化を図る。</p> <p><b>3) 理事会・社員総会の適切な運営</b>  上記の 1) 2) の議論を踏まえ、理事会において重要な経営判断ができるよう、効率的に、かつ適切に運営を行う。3 月に開催される社員総会を適切に運営する。</p> <p><b>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化</b>  ・事務局員に対するフォロー  ・シニア職員退職に伴う事務局員の業務分担及び業務量の適性化  ・事務局員とのコミュニケーション向上</p> <p><b>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守</b>  会誌編集委員会と連携し、会誌電子書籍版の特性を生かしたさらなるコンテンツ増強を企画・推進する。また、Industry 委員会／メンバー委員会／SICE-DIA の活動と連携して、SICE 内の各種活動を把握して活動全体の合理化を行う。活動の実績が失われることなくアクセス可能とするためにデジタル化・アーカイブ化を進める。さらに、学会運営を効率化するために学会運営ワークフローの DX 化を検討する。全ての活動においてコンプライアンスを遵守する。</p> <p><b>6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口</b>  会長・副会長の補佐を行う。他学協会との連携の際の窓口を務める。</p>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	財務委員会	担当	小倉委員長、原田副委員長
-----	-------	----	--------------

2026 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する (0.1)</li> <li>・ 特定費用準備資金の有効活用 (1.2)</li> <li>・ 年間収支のモニタリング・分析に基づく、予算立案プロセス改善と中長期施策の立案、デジタル化の影響の見極め (5.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p><b>【定常業務】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 期末決算・事業報告作成 (1～3 月)</li> <li>2. 期末決算・事業報告内閣府提出準備 (3 月)</li> <li>3. 期末決算・事業報告 内閣府提出 (3 月末)</li> <li>4. 新役員変更届内閣府提出 (4 月末)</li> <li>5. 上期活動計画の見直し (4～6 月)</li> <li>6. 中間決算 (6 月末)</li> </ol> <p><b>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 財務トレンドに基づく予算策定方法の検討</li> <li>8. 財務トレンドのさらなる可視化とデータ更新方法を含むデータ管理体制の検討</li> <li>9. 特定費用準備資金 (国際・オープンサイス) の運用確認、見直し・修正を適宜実施</li> <li>10. 財務構造の見直し (受取会費の法人・公益配分比率、等)</li> <li>11. 収益事業新設の検討</li> </ol>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p><b>【定常業務】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上期活動計画・中間決算結果報告（7 月）</li> <li>2. 事業計画策定・予算策定（7～10 月）</li> <li>3. 事業計画・予算レビュー（11 月）</li> <li>4. 事業計画・予算内閣府提出準備（11～12 月）</li> <li>5. 事業計画・予算内閣府提出（12 月末）</li> <li>6. 期末決算（12 月）</li> </ol> <p><b>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 財務トレンドに基づく予算策定方法の検討</li> <li>8. 財務トレンドのさらなる可視化とデータ更新方法を含むデータ管理体制の検討</li> <li>9. 特定費用準備資金（国際・オープンサイス）の運用確認、見直し・修正を適宜実施</li> <li>10. 財務構造の見直し （受取会費の法人・公益配分比率、等）</li> <li>11. 収益事業新設の検討</li> </ol>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	企画委員会	担当	安井委員長 坂東副委員長、小松副委員長
-----	-------	----	------------------------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE ミッション・中期的課題の更新および事業計画の策定</li> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する (0.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>委員会開催 委員の決定 委員会開催 2～3 回</p> <p>1. 学会活動の将来に向けた課題の洗い出しと整理 ・ 拡大理事ワークショップ（意見聴取または討議）のテーマ決定</p> <p>2. 2026 年度拡大理事ワークショップの準備 ・ 実施形態および日時の決定 SICE FES 2026 (2026/9/14-17) の前または 8 月中旬ごろの開催を予定（パシフィコ横浜周辺） (FES が 9/14～9/17@横浜あるため、それに合わせて開催予定)</p> <p>3. SICE を活性化するための施策・企画等の検討 ・ さいす学, フィジカル AI, 部門間連携, 産学連携などに関する施策・企画等の検討 ・ その他施策・企画等の検討</p>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>委員会開催：2～3 回</p> <p>1. 2026 年度拡大理事ワークショップの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直轄委員会委員長、部門長、支部長への意見聴取または討議を実施（9 月開催を予定）</li> </ul> <p>2. 2027 年度 SICE 中期的課題と事業計画へ展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大理事ワークショップの結果を受け、中期的課題の更新、事業計画の策定を実施（10 月）</li> <li>・各組織へ度事業計画の提出を依頼し、理事会での提案を実施（12 月）</li> </ul> <p>3. SICE を活性化するための施策・企画等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さいす学, フィジカル AI, 部門間連携, 産学連携などに関する施策・企画等の実施</li> <li>・その他施策・企画等の実施</li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	学会賞委員会	担当	三平委員長、大串副委員長
-----	--------	----	--------------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する (0.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ 社会貢献を推進する表彰制度の実施 (7.4)</li> <li>・ 若手及び中堅会員への活動支援の実施（表彰制度、会員情報の整備及びそれを活用した支援）(9.2)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2025 年度学術奨励賞の選考作業および贈賞、結果の Web 掲載</li> <li>2) 2025 年度優秀学生賞の募集および贈賞</li> <li>3) (他団体表彰) 2025 度油空圧機器技術振興財団論文顕彰への推薦論文選考作業</li> <li>4) 2026 度学会賞 (論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞、サステイナブル社会貢献賞、若手学会貢献賞) の選考作業</li> <li>5) (他団体表彰) 2026 度 FA 財団論文賞への推薦論文選考作業</li> <li>6) (他団体表彰) 島津科学技術振興財団論文賞への推薦作業</li> <li>7) (功績賞選考委員会) 2026 度功績賞授与候補者選考作業</li> <li>8) (フェロー選考委員会) 2026 度フェロー称号授与候補者選考作業</li> <li>9) SICE FES 2026 Annual Conference Award 選考作業</li> <li>10) (随時) 部門等からの SICE Young Authors Award 募集要項提案の検討・承認および理事会への提案</li> <li>11) (随時) 各部門・部会等が所掌する研究奨励賞等の Web 掲載作業</li> </ol>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1) SICE FES 2026 Annual Conference Award 選考作業および贈賞</p> <p>2) 2026 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞、サステイナブル社会貢献賞、若手学会貢献賞）の贈賞、結果の Web 掲載</p> <p>3) (功績賞選考委員会) 2026 年度功績賞の贈賞、結果の Web 掲載</p> <p>4) (フェロー選考委員会) 2026 年度フェロー称号の授与、結果の Web 掲載</p> <p>5) (随時) 部門等からの SICE Young Authors Award 募集要項提案の検討・承認および理事会への提案</p> <p>6) 学会賞委員会、各部門、各支部が所掌する賞の整理と見直し</p> <p>7) (随時) 各部門・部会等が所掌する研究奨励賞等の Web 掲載作業</p> <p>8) 各賞の選考作業の見直し</p> <p>9) 2026 年度学術奨励賞の選考作業</p> <p>10) 2027 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞、サステイナブル社会貢献賞、若手学会貢献賞）受賞候補の推薦募集</p> <p>11) 2027 年度功績賞授与候補者の推薦募集</p> <p>12) 2027 年度フェロー称号授与候補者の推薦募集</p>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	会誌出版委員会	担当	小木曾委員長・来海副委員長
-----	---------	----	---------------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する (0.1)</li> <li>・ 会誌のあり方の見直し、デジタル化の推進 (3.2)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ さいす学、フェジカル AI の社会実装に向けたコミュニティづくり(SICEFES、部門大会、会誌等での新規企画) (7.2)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1.学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特集企画・記事の公募，タイムリーな特集記事出版の検討</li> <li>・ 企業会員にも魅力的なテーマ選定、キーワード解説の充実</li> <li>・ 多面的な側面から SICE の研究領域を捉えた特集の充実</li> <li>・ 企業研究者/エンジニア、産業応用大学研究者による産業応用記事の充実に向けた体制検討</li> <li>・ 女性研究者、若手研究者（40 歳以下）を紹介する“FACE the future” の人選と継続</li> </ul> <p>2.計測・制御セレクションシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度に企画・公募した計測・制御セレクションシリーズの出版</li> <li>・ 新たな公募テーマの企画</li> <li>・ 出版継続体制構築に向けた出版担当委員選出方法を引き続き議論（必要に応じて総務委員会と連携）</li> </ul> <p>3.学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 65 巻第 1 号から正式に会誌が電子出版となるのに伴い、閲覧回数や有料オプション化された紙媒体冊子の発行部数などの調査分析を行う</li> <li>・ 特集企画回数を適正化，持ち込み特集企画・投稿原稿・SICE 活動報告等のタイムリーな企画等の導入による活性化を引き続き検討する</li> <li>・ 電子出版化・冊子合本化など会誌出版の在り方を継続して検討する（PATF の答申に沿って検討）</li> <li>・ SICE や会誌に対する会員の意見を会誌の記事構成や内容に反映させる方策の検討を開始する</li> </ul> <p>4.会誌出版体制の長期的持続のための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事・委員の選出方法，部門に対する負荷分担の在り方等について，継続して検討する（PATF の答申に沿って検討）</li> </ul>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1.学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業会員にも魅力的なテーマ選定、キーワード解説の充実</li> <li>・多面的な側面から SICE の研究領域を捉えた特集の充実</li> <li>・企業研究者/エンジニア、産業応用大学研究者による産業応用記事の充実に向けた体制検討</li> <li>・女性研究者、若手研究者（40 歳以下）を紹介する“FACE the future”の人選と継続</li> </ul> <p>2.計測・制御セレクションシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に企画・公募した計測・制御セレクションシリーズの出版</li> <li>・新たな公募テーマの応募案件の推進</li> <li>・出版継続体制構築に向けた出版担当委員選出方法を引き続き議論（必要に応じて総務委員会と連携）</li> </ul> <p>3.学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子出版となった会誌の閲覧回数や有料オプション化された紙媒体冊子の発行部数などの調査分析を継続する</li> <li>・特集企画回数を適正化、持ち込み特集企画・投稿原稿・SICE 活動報告等のタイムリーな企画の導入による活性化を引き続き検討する</li> <li>・SICE や会誌に対する会員の意見を会誌の記事構成や内容に反映させる方策を検引き続き検討する</li> </ul> <p>4.会誌出版体制の長期的持続のための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事・委員の選出方法、部門に対する負荷分担の在り方等について、継続して検討する（PATF の答申に沿って検討）</li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	和文論文集委員会	担当	亀崎委員長、永原副委員長
-----	----------	----	--------------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・和文論文集の着実な発行</li> <li>・編集にかかる業務の内容・方法，運営についての効率化と投稿数増加に向けて不断の見直し</li> <li>・論文投稿数増加に向けての，論文集の魅力向上策の検討と策定および情報発信</li> <li>・学会デジタル化への対応</li> <li>・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1 和文論文集の着実な発行</p> <p>1.1 EiC は論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会で報告し，担当理事は理事会にそれを報告する</p> <p>1.2 和文論文集編集委員会を開催し，E および AE に採択基準・査読方針を徹底する</p> <p>1.3 編集委員会（EB）は，編集から発行まで，和文誌編集の実務について維持・発展のため意見交換・議論を行い，必要に応じて特集号を企画する</p> <p>1.4 論文の投稿・査読・編集・出版状況を解析し，投稿数増加のための方策・編集手順を確認・検討する</p> <p>1.5 事務局担当者との連携について状況を確認し必要な修正を行う</p> <p>1.6 交代期の E，AE について確認しスムーズな移行を図る．委嘱状の発送も適宜行う</p> <p>2 編集にかかる業務の内容・方法，運営についての効率化と投稿数増加に向けて不断の見直し</p> <p>2.1 和文と英文それぞれの論文集編集委員会の活動状況を相互に確認し，業務内容・役割分担を明確にすることによって論文投稿数の向上を目指す</p> <p>2.2 学会のデジタル化の方針に沿って和文論文集発行にかかるすべての業務について必要な作業を洗い出し，必要な修正を行い，実施する</p> <p>2.3 和文誌の魅力を高める方策について検討しデジタル化との相乗効果を高める</p> <p>2.4 投稿環境を整えるため，論文テンプレートの更新，提出方法・手順を整える</p> <p>3 論文投稿数増加に向けての，論文集の魅力向上策の検討と策定および情報発信</p> <p>3.1 論文集委員会を開催し，編集方針を確認するとともに，魅力向上策などについて</p>	<p>●1～6 月</p>

<p>検討する</p> <p>3.2 投稿勧誘のための論文セミナーの計画と実施</p>	
<p>4 学会デジタル化への対応</p> <p>See 2.2, 2.3</p>	
<p>5 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</p>	
<p>6 外注業者から論文の投稿・編集・出版状況の入手と解析（1～2月）、理事会への報告</p>	

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1 和文論文集の着実な発行</p> <p>1.1 EiC は論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会で報告し、担当理事は理事会にそれを報告する</p> <p>1.2 和文論文集編集委員会を開催し、E および AE に採択基準・査読方針を徹底する</p> <p>1.3 編集委員会 (EB) は、編集から発行まで、和文誌編集の実務について維持・発展のため意見交換・議論を行い、必要に応じて特集号を企画する</p> <p>1.4 論文の投稿・査読・編集・出版状況を解析し、投稿数増加のための方策・編集手順を確認・検討する</p> <p>1.5 事務局担当者との連携について状況を確認し必要な修正を行う</p> <p>2 編集にかかる業務の内容・方法、運営についての効率化と投稿数増加に向けて不断の見直し</p> <p>2.1 和文と英文それぞれの論文集編集委員会の活動状況を相互に確認し、業務内容・役割分担を明確にすることによって論文投稿数の向上を目指す</p> <p>2.2 学会のデジタル化の方針に沿って和文論文集発行にかかるすべての業務について必要な作業を洗い出し、必要な修正を行い実施し、デジタル化への以降を確実なものとする。</p> <p>2.3 和文誌の魅力が高める方策について検討しデジタル化との相乗効果を高める</p> <p>2.4 投稿環境を整えるため、論文テンプレートの更新、提出方法・手順を整える</p> <p>3 論文投稿数増加に向けての、論文集の魅力向上策の検討と策定および情報発信</p> <p>3.1 論文集委員会を開催し、編集方針を確認するとともに、魅力向上策などについて検討する</p> <p>3.2 投稿勧誘のための論文セミナーの計画と実施</p> <p>4 学会デジタル化への対応 See 2.2, 2.3</p> <p>5 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</p> <p>6 外注業者から論文の投稿・編集・出版状況の入手と解析 (7～8 月)、理事会への報告</p>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	英文論文集委員会	担当	永原委員長、亀崎副委員長
-----	----------	----	--------------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英文論文集の経営外部委託による編集から発行までの運営の定常化</li> <li>・ 事務局人員削減に対応した論文集発行と委員会運営の構造の確立</li> <li>・ 英文論文集の国際的評価基準（Citation Index, Impact Factor）獲得へ向けた活動の継続</li> <li>・ 論文投稿数の減少の防止と、増加を狙った活動の促進</li> <li>・ 和英分離の新論文集委員会体制に沿った他委員会との連携法の整理と定着化</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（6.1）</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. 和英分離の新論文集委員会による事業体制の確立</p> <p>1-1 和文論文集委員会と英文論文集委員会を確立</p> <p>① 2 月の委員会開催まで、旧論文集委員長が両委員会の委員長を務める。各旧副委員長は、副委員長として両委員会に出席する。</p> <p>② 3 月の委員会開催から、和文担当理事が和文論文集委員会の委員長、英文担当理事が英文論文集委員会の委員長を務め、両者が他方の論文の副委員長となり出席する。新しい論文担当理事（和を主担当）は両論文集の 2 名目の副委員長となる。</p> <p>③ 各論文担当理事は 2 年間続けて片方の論文集の主担当となり、他方の論文集の運営を把握サポートする。</p> <p>④ 外注と経営外部委託が違い、および、著者と読者の層が全く異なる両論文集の性格に合わせ、論文集の維持発展を図る SICE から環境提供について議論し、各論文集委員会は SICE と和文編集委員会、および、JCMSI Editorial Board(EB)をつなげる。</p> <p>⑤ 各 EiC は論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会で報告し、担当理事は理事会にそれを報告する。</p> <p>⑥ 論文賞等、和英分離の新論文集委員会体制に沿った他委員会業務への協力窓口・体制の明確化する。</p> <p>1.2 新論文集委員会の体制下での各編集委員会(EB)を確立</p> <p>① 和論文と英論文の EiC は、それぞれ和文編集委員会と和文編集委員会と JCMSI EB を開催し、各論文の論文集委員長と副委員長も出席する。</p> <p>② 各編集委員会(EB)は、編集から発行まで、維持・発展のための実務について意見交換・議論を行い、特集号を企画する。</p> <p>③ 論文の投稿・編集・出版状況を解析し、投稿数増加のための採択基準と、編集手順を確認・検討する。</p> <p>2. 事務局人員削減と和文外注・英文委託、および、新論文集委員会となった事業運営体制に対応した SICE 事務局業務の定着</p>	<p>●1～6 月</p>

・和文論文集委員会、英文論文集委員会、和文論文集編集委員会、JCMSI Editorial Board の名簿を管理し、委嘱状発送する（2月末）。  
・理事会や他の委員会・会員に対する論文集委員会事項の連携窓口 となる。

### 3. 英文論文集の発行

- ・オープンアクセスによる論文毎の着実な発行と、コンプライアンスの順守
- ・新しい EiC 体制における T&F への経営委託による論文受付から発行作業までの定着化
- ・投稿数増加のための採択基準と、編集手順の確認
- ・2025 年 AC 特集号の発行、および、その他の特集号の実施と計画
- ・論文セミナー実施による投稿の勧誘
- ・論文投稿数増加を目指した、英文校正サービス補助制度の確立
- ・Editorial Board の国際性の強化
- ・招待論文を利用した国際性と知名度の強化
- ・文献引用データベースの評価基準の獲得へ向けた T&F との方針の検討
- ・T&F が提供する戦略的各種サービスの検討
- ・T&F からの投稿・編集・出版状況の入手と解析（1～2月）と、理事会への報告
- ・知名度向上のための JCMSI 見本誌の配布

### 4. Outstanding Reviewer 表彰の運用

- ・2026 年度より新設予定の査読者へのインセンティブを強化するため査読者に対する賞を運用する

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1. 和英分離の新論文集委員会による事業体制の定着化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Annual Conference の時期に合わせた、両論文委員会および両編集委員会(EB)の開催</li> <li>・ 両論文集委員会と両論文集編集委員会(EB)の取り扱い事項の整理と、会議回数等の見直しの検討</li> </ul> <p>2. SICE 事務局による事業サポート業務の定着化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両論文委員会のサポート、および、両編集委員会(EB)も含めた名簿の管理と委嘱状発行</li> </ul> <p>3. 英文論文集の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープンアクセスによる論文毎の着実な発行と、コンプライアンスの順守</li> <li>・ 投稿数増加のための採択基準と、編集手順の確認</li> <li>・ 2025 年 AC 特集号の企画、および、その他の特集号の実施と計画</li> <li>・ 論文投稿数増加を目指した、英文校正サービス補助制度の実施</li> <li>・ 招待論文を利用した国際性と知名度の強化</li> <li>・ 文献引用データベースの評価基準の獲得へ向けた T&amp;F とのスケジュールと戦略の検討</li> <li>・ T&amp;F が提供する戦略的各種サービスの検討</li> <li>・ T&amp;F からの投稿・編集・出版状況の入手と解析(8～9 月)、理事会への報告</li> <li>・ 知名度向上のための JCMSI 見本誌の配布</li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	カンファレンス委員会	担当	佐々木委員長、青山副委員長
-----	------------	----	---------------

2026 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動 (FES、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と見直し (2.1)</li> <li>・ さいす学、フィジカルAI の社会実装に向けたコミュニティづくり(SICEFES、部門大会、会誌等での新規企画) (7.2)</li> <li>・ SICE_FES を通じた国際プレゼンスのさらなる向上(裾野の広がり と 質の高さを両立する場の形成) (8.1)</li> <li>・ SICE が主催、共催する国際会議、および招聘/現地組織する国際会議 (SICE FES 202x、IFAC、IMEKO、IEEE 関連行事) への開催支援 (8.2)</li> <li>・ 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し (10.1)</li> <li>・ SICE FES/部門大会におけるチュートリアル の活性化 (10.4)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p><b>1. SICE FES w/AC2026 (横浜)</b></p> <p>1-1 SICE FES 関連企画準備</p> <p>1-2 Student Grant 検討</p> <p>1-3 SICE FES におけるさいす学、フィジカル AI 関連企画の提案・準備</p> <p>1-4 部門・支部連携企画の提案 (実施は部門協に依頼)</p> <p>1-6 VIP Reception・Friendship Lunch Meeting 計画 (Invitation 案, 宛先リスト作成 (事務局))</p> <p>1-7 SICE FES 2026 の Tech. Co.締結/ IEEE Conference Application 登録作業 (w/事務局)</p> <p>- Tech. Co. 依頼発信→受諾受領 IEEE CSS/RAS/IES、ICROS、TCCT、ECTI、CACs、CS(インド)、JEMIMA (IEEE/CSS/RAS/IES との Tech. Co.締結完了)</p> <p><b>2. SICE FES w/AC 2027 (函館)</b> 計画案、予算案の策定</p> <p><b>3. SICE FES w/AC 2028 以降について</b> 開催地の検討・依頼</p> <p><b>4. FLOMEKO2026 (奈良) の開催支援 (IMEKO、産総研と共催)</b></p> <p><b>5. 海外学会との交流</b></p> <p>5-1 海外学会イベントの共催・協賛管理</p> <p>5-2 MOU 締結状態の維持、新規締結検討 (適宜) IEEE : 2025 年末に更新済 (28 まで有効) IEEE CSS : 2025 年末に更新済 (30 まで有効) ICROS : 更新済 (自動更新) IROS : 2026 更新予定 TCCT : 2024 年末に更新済 (XX まで有効)</p> <p><b>6 SICE の国際プレゼンス向上活動</b></p> <p>6-1 IROS 関連 (国際主催共催会議推進資金の活用)</p> <p>6-2 海外学会主催会議での各種連携活動</p>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p><b>1. SICE FES w/AC2026 (横浜)</b></p> <p>1-1 SICE FES 開催</p> <p>1-2 SICE FES におけるさいす学、フィジカル AI 関連企画の実施</p> <p>1-3 部門・支部との連携企画の開催支援</p> <p>1-4 VIP Reception, Friendship Lunch Meeting 開催</p> <p>1-5 SICE FES 2027 の Tech. Co.準備開始 (w/事務局) IEEE CSS/RAS/IES、ICROS、TCCT、ECTI、CACs、CS (インド)、JEMIMA IEEE Conference Application 申請</p> <p><b>2. SICE FES w/AC 2027 (函館)</b> 計画案、予算案の理事会審議・承認</p> <p><b>3. SICE FES w/AC 2028 以降について</b> SICE FES2028 開催地決定 SICE FES2029 以降の検討</p> <p><b>4. FLOMEKO2026 (奈良) の実施報告、決算</b></p> <p><b>5. 海外学会との交流</b></p> <p>5-1 海外学会イベントの共催・協賛管理</p> <p>5-2 MOU 締結状態の維持、新規締結検討 (適宜) (更新時：内容検討/更新可否の議論)</p> <p><b>6 SICE の国際プレゼンス向上活動</b></p> <p>6-1 IROS 関連(IROS2026 参加)</p> <p>6-2 海外学会主催会議での各種連携活動</p> <p>6-3 IROS 関連 (国際主催共催会議推進資金の活用)</p>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	インダストリ委員会	担当	安井委員長、手塚副委員長
-----	-----------	----	--------------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際規格の作成に向けた活動，そのプロモーションと表彰 (8.4)</li> <li>・ さいす学，フィジカル AI，ニューインダストリ分野（知能化モビリティ・ロボット等）に関する各種活動の企画および推進 (9.1, 10.1, 11.1, 11.2, 12.1)</li> <li>・ SICE エグゼクティブサロンの企画推進 (10.2)</li> <li>・ Wagora 活動の推進支援 (10.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月 委員会開催：2 回以上予定</p> <p>***さいす学，フィジカル AI，ニューインダストリ分野に関する活動***</p> <p>1) SICE 2026（9 月：横浜）に向けた OS 企画の策定（実行、運営は下期）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ さいす学，フィジカル AI，ニューインダストリ分野に関する OS 企画，特別企画の企画と準備</li> <li>・ Wagora 連携 OS や特別企画の推進支援</li> </ul> <p>2) SICE MSCS2026 における OS 企画，特別展示の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ さいす学，フィジカル AI に関する OS 企画，特別展示</li> </ul> <p>3) ECTI-CRD 2026 における ASEAN Networking Event の企画と開催・ECTI との連携イベント</p> <p>※SICE FES 2025 以降、ECTI より継続開催要望あり</p> <p>ECTI : Electrical Engineering, Electronics, Computer, Communications, and Information Technology <u>ECTI Association</u></p> <p>***会員への情報発信と教育支援***</p> <p>4) 「安全のための計測・制御・システムを考える会」の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－定期的な会合</li> </ul> <p>5) 体験セミナー・企業見学会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－年間計画策定フォロー（準備、実施）</li> </ul> <p>6) 産業応用セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－実施、フォローアップ</li> </ul> <p>7) SICE 技術レポート企画</p> <p>8) SICE Wagora</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ SICE Wagora 公開オンラインフォーラム</li> </ul> <p>***広報・リエゾン機能の強化活動***</p> <p>9) JEMIMA 等工業会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－IIFES 準備。計測展へブース参加。出展・出展者セミナー企画等に協力。</li> <li>－IEC TC65 プレナリ会議に協力</li> </ul> <p>10) SICE エグゼクティブサロン開催</p>	<p>●1～6 月</p>

— 最大年2回を予定。

\*\*\*国際標準化活動\*\*\*

- 11) 国際標準化動向の調査
  - ・ACの論文の調査
  - ・リエゾン委員との情報交換
- 12) 部門、部会に国際標準化に関するアンケートを実施
- 13) 国際標準化賞の推薦  
功績賞と奨励賞の候補者についてその妥当性を評価・審議し、適当と認められた者を学会賞委員会に推薦する。
- 14) JIS規格の定期見直しと改廃の検討  
—JIS Z 8803 および 8809
- 15) 国際標準化の課題検討

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>委員会開催：2 回以上予定</p> <p>***さいす学, フィジカル AI, ニューインダストリ分野に関する活動***</p> <p>SICE 2026 (9 月：横浜) に向けた OS 企画の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さいす学, フィジカル AI, ニューインダストリ分野に関する OS 企画, 特別企画の実施</li> <li>・Wagora 連携 OS や特別企画の推進支援</li> </ul> <p>***会員への情報発信と教育支援***</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「安全のための計測・制御・システム を考える会」の活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>－定期的な会合</li> </ul> </li> <li>2) 体験セミナー・企業見学会 <ul style="list-style-type: none"> <li>－年間計画策定フォロー (準備, 実施)</li> </ul> </li> <li>3) 産業応用セミナー <ul style="list-style-type: none"> <li>－実施、フォローアップ</li> </ul> </li> <li>4) SICE 技術レポート企画</li> <li>5) SICE Wagora <ul style="list-style-type: none"> <li>－ SICE Wagora 公開オンラインフォーラム</li> </ul> </li> </ol> <p>***広報・リエゾン機能の強化活動***</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6) JEMIMA 等工業会との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－IFES 準備。計測展へブース参加。出展・出展者セミナー企画等に協力。</li> <li>－IEC TC65 プレナリ会議に協力</li> </ul> </li> <li>7) SICE エグゼクティブサロン開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 最大年 2 回を予定。</li> </ul> </li> </ol> <p>***国際標準化活動***</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8) SICE 2026 (9 月：横浜) での OS を企画・実施する。</li> <li>9) 国際標準化動向の調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AC の論文の調査</li> <li>・リエゾン委員との情報交換</li> </ul> </li> <li>10) 部門、部会に国際標準化に関するアンケートを実施</li> <li>11) 国際標準化賞の推薦 (上期にて実施)</li> <li>12) JIS 規格の定期見直しと改廃の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>－JIS Z 8803 および 8809</li> </ul> </li> <li>13) 国際標準化の課題検討</li> </ol>	

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	メンバー委員会	担当	小野委員長、恩田副委員長
-----	---------	----	--------------

2026 年度事業計画（本組織の主担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>4. 緩急ある学会運営のスリム化と効率化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>4.2 ウェブ更新効率化による情報発信の促進</li> </ul> </li> <li>・ <b>7. SICE が主導する「さいす学」の発信と Society 5.0、SDGs 等社会的課題への SICE の取り組み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>7.3 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信</li> </ul> </li> <li>・ <b>9. 会員への情報発信と教育支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>9.1 さいす学とフィジカル AI に関する SICE 企画</li> <li>9.3 教材（理科、制御）の提供、進路相談ならびに資料の提供</li> <li>9.4 高校生の SICE イベントへの参加、ジュニア会員の創設</li> </ul> </li> <li>・ <b>10. 企業会員のための施策の強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>10.5 地方活性化の検討（非会員地元企業との連携、など） ※支部協と共同で主担当</li> </ul> </li> <li>・ <b>13. 見えない壁の無効化によるダイバーシティ推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>13.1 SICE Diversity and Inclusion Activity（SICE-DIA）の運営、啓蒙や情報発信の企画・実施（会誌特集号の検討）</li> </ul> </li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月 委員会活動：2 回</p> <p>SICE-DIA 会合開催：2 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE-DIA 活動を含めた広報の検討</li> </ul> <p>◆企業会員のための施策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部協との検討会開催</li> </ul> <p>◆会員への情報発信と教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友好団体との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－男女共同参画学協会連絡会への参加</li> <li>－夏の学校出展準備</li> <li>－会員増強施策の検討</li> </ul> </li> </ul> <p>・ SNS コンテンツの拡充フォロー</p> <p>◆広報・リエゾン機能の強化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE 本部／部門／支部などの WEB のあり方検討</li> </ul> <p>・ ISCIE 連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－企画運営会議・ステアリング会議(5 月)</li> <li>－SSH 出展準備・夏学参加準備</li> </ul> </p> <p>・ 横幹連合連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－定時総会(4 月)</li> </ul> </p> <p>・ その他学会連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－他学会行事協賛(随時)</li> </ul> </p> <p>・ 日本学術会議と連携（多分野応用小委員会） <ul style="list-style-type: none"> <li>－自動制御連合講演会 開催</li> </ul> </p>	<p>●1～6 月</p>

<p>◆教育・認定活動 教育WG</p> <p>SICE エンジニア認定      -WG 会合      -試験問題の作成      -オンライン実施の日程確定・準備</p> <p>・プロセス新塾-考究 eX      第5回目 (2月) 第6回目 (3月) 第7回目 (4月) 第8回目 (5月)</p> <p>-プロセス新塾 2026 実施計画の策定      -WG 会合      -教育内容を検討 (通年)      -次年度以降計画の検討</p> <p>・ SICE 共創塾      -企業エンジニアの新たな気づきの場の提供      -「さいす学」×「共創」の具体化</p> <p>・教材 (理科、制御) の提供準備      進路相談ならびに資料の提供準備</p> <p>・CPD ポイント      -ポイント集計と表彰者決定</p> <p>・JABEE      -情報収集 (通年)      -審査支援 (通年)</p>	
--	--

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>委員会活動：2 回</p> <p>SICE-DIA 会合開催：2 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE-DIA 活動を含めた広報の検討</li> <li>◆企業会員のための施策の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部協との検討会開催</li> </ul> </li> <li>◆会員への情報発信と教育支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友好団体との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－男女共同参画学協会連絡会への参加</li> <li>－夏の学校出展（8 月）</li> <li>－会員増強施策の検討</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ SICE 内相談窓口機能の設置に向けた具現化</li> <li>・ 会員増強施策の検討まとめ</li> <li>・ SNS コンテンツの拡充フォロー</li> <li>◆広報・リェゾン機能の強化活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE 本部／部門／支部などの WEB のあり方検討</li> </ul> </li> <li>・ ISCIE 連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－ステアリング会議(11 月)</li> <li>－SSH 出展・夏学参加</li> </ul> </li> <li>・ 横幹連合連携</li> <li>・ その他学会連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>－他学会行事協賛(随時)</li> </ul> </li> <li>・ 日本学術会議と連携（多分野応用小委員会） <ul style="list-style-type: none"> <li>－自動制御連合講演会 開催</li> </ul> </li> <li>◆教育・認定活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE エンジニア認定 <ul style="list-style-type: none"> <li>－WG 会合</li> <li>－試験問題の作成</li> <li>－オンライン実施の日程確定・準備</li> <li>－受験者増対策の検討, 受験者勧誘</li> </ul> </li> <li>・ プロセス新塾・考究 eX <ul style="list-style-type: none"> <li>－プロセス新塾 2026 実施</li> <li>－プロセス新塾 2027 実施計画の策定</li> <li>－WG 会合</li> <li>－教育内容を検討（通年）</li> </ul> </li> <li>・ SICE 共創塾 <ul style="list-style-type: none"> <li>－企業エンジニアの新たな気づきの場の提供</li> </ul> </li> <li>・ 「さいす学」×「共創」の具体化</li> </ul> </li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

<ul style="list-style-type: none"><li>・教材（理科、制御）の提供準備 進路相談ならびに資料の提供準備</li> <li>・CPD ポイント －表彰式・賞状授与</li> <li>・JABEE －情報収集（通年） －審査支援（通年）</li></ul>	
--	--

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	部門協議会	担当	榊原議長、北田副議長
-----	-------	----	------------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する. (0.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し (10.1)</li> <li>・ SICE FES/部門大会におけるチュートリアル活性化 (10.4)</li> </ul> <p><b>【副担当】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ 特定費用準備資金の有効活用 (1.2)</li> <li>・ 部門・支部のあり方についての検討 (1.3)</li> <li>・ SICE が主催、共催する国際会議、および招聘/現地組織する国際会議（SICE202x、IFAC、IMEKO、IEEE 関連行事）への開催支援 (8.2)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p><u>1. 部門活動の促進サポート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 回の部門協議会を開催</li> </ul> <p><u>2. 支部協議会との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部協議会への参加と情報共有</li> <li>・ 合同の協議会を開催し合同講演会開催の検討</li> </ul> <p><u>3. 企画委員会などとの連携強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財務委員会、企画委員会、メンバー委員会に参加し、内容を部門へ報告</li> <li>・ ダイバーシティ推進に関する部門活動を SICE-DIA と共有</li> </ul> <p><u>4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各 WG と専門委員会の活動状況把握</li> <li>・ 部門関連データの活用策検討</li> <li>・ 部門活動におけるダイバーシティ推進施策との相乗効果発揮</li> </ul> <p><u>5. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各部門における活動の把握</li> <li>・ 各部門から SICE 本体選出委員の把握</li> <li>・ 会員の希望と負担のバランス調査</li> <li>・ 部会の活性化のため部門合同の研究会の検討</li> </ul>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p><u>1. 部門活動の促進サポート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 回の部門協議会を開催</li> </ul> <p><u>2. 支部協議会との連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部協議会への参加と情報共有</li> </ul> <p><u>3. 企画委員会などとの連携強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財務委員会、企画委員会、メンバー委員会に参加し、内容を部門へ報告</li> <li>・ダイバーシティ推進に関する部門活動を SICE-DIA と共有</li> </ul> <p><u>4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各 WG と専門委員会の活動状況把握</li> <li>・部門関連データの活用策検討</li> <li>・部門活動におけるダイバーシティ推進施策の相乗効果発揮</li> </ul> <p><u>5. AC 活性化、OS 企画・貢献</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部門で個別実施</li> </ul> <p><u>5. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部門における活動の把握</li> <li>・各部門から SICE 本体選出委員の把握</li> <li>・会員の希望と負担のバランス調査</li> <li>・上期の協議結果を踏まえた 2027 年度計画立案</li> <li>・部会の活性化のため部門合同の研究会の検討</li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	計測部門	担当	大串部門長
-----	------	----	-------

2026 年度事業計画 (計測部門担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動 (FES、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ さいす学、フィジカル AI の社会実装に向けたコミュニティ作り (SICEFES、部門大会、会誌等での新規企画) (7.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1 月</p> <p>2 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先端電子計測部会運営委員会</li> <li>・ 第 130 回力学量計測部会行事: 力学量計測部会講演会・見学会 (場所、未定)</li> <li>・ センシングフォーラム運営委員会</li> <li>・ 計測部門運営委員会</li> <li>・ 温度計測部会運営委員会</li> <li>・ 第 150 回温度計測部会行事: 講演会</li> </ul> <p>3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パターン計測部会協賛企画・動的画像処理実利用化ワークショップ(DIA2025)</li> <li>・ 先端電子計測部会運営委員会</li> <li>・ IMEKO 2026 TC3/TC5/TC16/TC22 Joint Conference in Hangzhou, China (力学量計測部会)</li> </ul> <p>5 月</p> <p>6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 力学量計測部会運営委員会</li> <li>・ 第 131 回力学量計測部会行事: 有機微量分析合同シンポジウム (徳島文理大学香川キャンパス)</li> <li>・ センシングフォーラム運営委員会</li> <li>・ 計測部門運営委員会</li> </ul>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先端電子計測部会: 運営委員会</li> </ul> <p>8 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パターン計測部会協賛行事: 画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2026) (共催未定: 可能性あり)</li> </ul> <p>9 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計測部門大会 第 43 回センシングフォーラム (大分大学)</li> <li>・センシングフォーラム運営委員会</li> <li>・計測部門運営委員会</li> <li>・温度計測部会運営委員会</li> </ul> <p>10 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア太平洋力学量計測フォーラム (APMF2026) in Jeju, Republic of Korea (力学量計測部会)</li> </ul> <p>11 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 31 回パターン計測シンポジウム</li> <li>・スマートセンシングシステム部会研究会</li> <li>・第 121 回力学量計測部会行事: 計量史をさぐる会</li> <li>・先端電子計測部会: 見学会</li> <li>・先端電子計測部会: 運営委員会</li> </ul> <p>12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パターン計測部会共同企画: ビジョン技術の実利用ワークショップ ViEW 2026</li> <li>・力学量計測部会運営委員会</li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	制御部門	担当	伊藤 (博) 部門長
-----	------	----	------------

2026 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・カンファレンス活動 (FES、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>第 13 回制御部門マルチシンポジウム (MSCS2026) 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE International Symposium on Control Systems 2026</li> <li>・ 第 54 回 制御理論シンポジウム</li> <li>・ 第 17 回 プラントモデリングシンポジウム</li> <li>・ 第 25 回 適応学習制御シンポジウム</li> <li>・ 第 43 回 誘導制御シンポジウム</li> <li>・ 第 12 回 システム構築と制御技術シンポジウム</li> </ul> <p>MSCS における産業応用部門との Joint OS 等の検討</p> <p>部門賞贈呈式</p> <p>第 1 回制御部門運営委員会開催</p> <p>各委員会・部会・調査研究会の運営委員会・研究会・講演会・社会オープン型セミナー・配信セミナー・ワークショップ・産学マッチング事業・見学会などの実施</p>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>第 2 回制御部門運営委員会開催</p> <p>第 14 回制御部門マルチシンポジウム(MSCS2027)の企画・検討・準備</p> <p>部門賞の選考</p> <p>SIYA CDC 2026 の選考と贈呈</p> <p>産業応用部門大会における Joint OS の開催</p> <p>第 4 回制御部門運営委員会開催</p> <p>各委員会・部会・調査研究会の運営委員会・研究会・講演会・若手支援合宿・社会オープン型セミナー・配信セミナー・産学マッチング事業・見学会などの実施</p>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	システム・情報部門	担当	小林部門長
-----	-----------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>●1～6 月                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 部門大会における部会・研究会とのシンポジウム共催の検討</li> <li>■ 部門大会の実行委員会などの組織化・開催準備</li> <li>■ 部会シンポジウムなどの開催（適宜、部門間ならびに部門内での連携・協調の可能性・有効性を模索）</li> <li>■ 部門賞選考プロセス（表彰委員会の構成・発表賞の選考）の点検・見直し</li> <li>■ 部門大会特集号の論文募集・査読プロセス管理・採録論文決定</li> <li>■ 活動計画実施状況のレビューと PDCA による評価・見直しのねらい・ポイントの再確認・明確化</li> <li>■ 部会・研究会の決算報告や部門予算管理におけるインセンティブの運用方策・方式について検討</li> <li>■ Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのための情報発信方法の検討</li> <li>■ 会員情報 DB の整備と部門大会活性化の検討</li> </ul> </li> <li>●1 月                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ CI 部会 第 1 回部会運営委員会</li> <li>■ 第 39 回自律分散システム・シンポジウム、運営委員会</li> </ul> </li> <li>●3 月                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第 1 回研究会&amp;運営会議（境界）</li> <li>■ 第 68 回システム工学部会研究会、部会運営委員会</li> <li>■ 第 53 回知能システムシンポジウム、運営委員会</li> <li>■ 第 39 回社会システム部会研究会、第 1 回社会システム部会運営委員会</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1～6 月</li> </ul>

●6月

- 自律分散システム部会運営委員会
- 第2回研究会&運営会議（境界）
- 第27回 CI 研究会、第2回運営委員会

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月 部門大会における部会・研究会とのシンポジウム共催の検討 部門大会の実行委員会などの組織化・開催準備 部会シンポジウムなどの開催（適宜、部門間ならびに部門内での連携・協調の可能性・有効性を模索） 部門賞選考プロセス（表彰委員会の構成・発表賞の選考）の点検・見直し 部門大会特集号の論文募集・査読プロセス管理・採録論文決定 活動計画実施状況のレビューと PDCA による評価・見直しのねらい・ポイントの再確認・明確化 部会・研究会の決算報告や部門予算管理におけるイセンティブの運用方策・方式について検討</p> <p>●7 月 ■ 第 40 回社会システム部会研究会</p> <p>●8 月 ■ 第 41 回社会システム部会研究会</p> <p>●9 月 ■ 第 6 回創発システム勉強会、第 73 回自律分散システム部会研究会、運営委員会 ■ 第 3 回研究会&amp;運営会議、SICE2026 OS 企画（境界）</p> <p>●11 月 ■ システム工学部会運営委員会 ■ 第 2 回知能工学部会運営委員会 ■ SSI2026 GS 企画（境界） ■ 第 2 回社会システム部会運営委員会</p> <p>●12 月 ■ 第 4 回研究会&amp;運営会議（境界） ■ 第 28 回 CI 研究会と CI フォーラム、第 3 回部会運営委員会</p>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	システムインテグレーション部門	担当	平田部門長
-----	-----------------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部門運営委員会（幹事団）による部会活動フォロー 計画消化, 支部・他部門連携, コンプライアンス</li> <li>・ WWW サイト情報発信</li> <li>・ 部門学術講演会 SI 前年度会計処理フォロー</li> <li>・ 部門学術講演会 SI 運営企画フォロー</li> <li>・ 部門国際会議 SII 運営企画フォロー</li> <li>・ SIYA-IROS 賞運営</li> <li>・ 部門賞募集と選定</li> <li>・ FA 財団賞ノミネート</li> <li>・ 運営委員会の部門協議会に合わせた開催</li> <li>・ 第 1 回運営委員会（1 月第 1 週予定）</li> <li>・ 第 2 回運営委員会（1 月：メール審議）</li> <li>・ 第 3 回運営委員会（3 月：メール審議）</li> <li>・ 第 4 回運営委員会（5 月）</li> </ul>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部門運営委員会（幹事団）による部会活動フォロー 計画消化, 支部・他部門連携, コンプライアンス</li> <li>・WWW サイト情報発信</li> <li>・表彰委員会による部門賞選定と部門学術講演会における贈賞</li> <li>・レスキューロボットコンテスト</li> <li>・RT ミドルウェアコンテスト</li> <li>・当年度, 次年度, 次次年度部門学術講演会運営企画フォロー</li> <li>・次年度部門国際会議 SII 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォローと次次年度以降の SII 開催地、実行委員長選定、企画運営のフォロー</li> <li>・SIYA-SII 賞運営</li> <li>・2025 年度体制の決定と予算策定の実施</li> <li>・本部委員の供出・情報発信 和英会誌, 学会賞, AC, 代議員</li> <li>・経産省 WRS 競技会 表彰</li> <li>・特定費用準備資金による IROS 事業支援</li> <li>・部門学術講演会 SI</li> <li>・第 5 回運営委員会（8 月：メール審議）</li> <li>・第 6 回運営委員会（9 月）</li> <li>・第 7 回運営委員会（10 月：メール審議）</li> <li>・第 8 回運営委員会（11 月：メール審議）</li> <li>・第 9 回運営委員会（12 月）</li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	産業応用部門	担当	澤田部門長
-----	--------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<p>1.1 SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画</p> <p>2.1 カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し</p> <p>6.1 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守</p> <p>8.4 国際標準化活動の促進および表彰</p> <p>10.4 SICE FES/部門大会におけるチュートリアル活性化</p> <p>11.1 他団体（JEMIMA, NECA）との連携セミナー企画</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6月</p> <p>◆部門運営委員会            新年度運営体制構築            部門大会企画準備            学会運営業務負荷低減策検討</p> <p>◆制御部門マルチシンポジウム（MSCS2027）との連携の企画・実施</p> <p>◆部会活動            ・会員企業向けセミナー            ・計装寺子屋セミナー            ・よく知る会</p> <p>◆産業応用部門大会            ・制御部門招待 OS 立案</p> <p>・部門賞候補者推薦募集</p> <p>・各部会主催行事の準備・実施</p>	<p>●1～6月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部門運営委員会 部門大会の企画確認、各種広報 部門大会の実施準備 次年度部門大会での OS 連携に向けた企画調整</li>   <li>・ 流体計測制御シンポジウムの開催</li> <li>・ 流体計測制御シンポジウム ベストプレゼンテーション賞の表彰</li>   <li>・ SICEAC(8 月)における JEMIMA Talk や スペシャルセッションや関連 OS の運営・実施</li>   <li>・ 産業応用部門大会の実施・フェス化提案</li>   <li>・ 部門賞候補者推薦 審査・決定、表彰の実施</li>   <li>・ 各部会主催行事の準備・実施</li>   <li>・ 会員企業向けセミナー</li> <li>・ 計装寺子屋セミナー</li> <li>・ よく知る会</li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	ライフエンジニアリング部門	担当	田中部門長
-----	---------------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本生体医工学会，電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会等と合同で生体医学に関する講演会を実施する。</li> <li>2. 前，現，次期，次次期部門長会議により，中期ビジョンが達成できる組織運営を築く。</li> <li>3. 部門・部会合同運営委員会を実施することにより，効率的な管理体制を構築し，財務体質の健全化を図る。</li> <li>4. 部門・部会のイベント開催や諸事業の収益構造の改善を通じて部門の財務体質の健全化を図る。</li> </ol>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフエンジニアリング部門シンポジウム／生体・生理工学シンポジウムを部門主導のもと、全部会の協力で実施する。</li> <li>2. ライフエンジニアリング分野の若手研究者の研究を奨励するため、ライフエンジニアリング部門シンポジウム発表者の中から、優秀な研究者を選抜し、研究奨励賞を授与する。中高生向けの無料講座を開催することで、ライフエンジニアリング分野の活性化を図る。</li> <li>3. 日本生体医工学会、電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会等と合同で大学院生、若手研究者を対象に、生体医工学に関するサマースクールを実施する。</li> <li>4. 電気生理運動学部会において、研究会を実施する。</li> <li>5. ユビキタスヘルスケア部会において、研究会を実施する。</li> <li>6. 統合情報生物工学部会において、研究会を実施する。</li> <li>7. 上期に引き続き、前、現、次期、次次期部門長会議により、中期ビジョンが達成できる組織運営を築く。</li> <li>8. 上期に引き続き、部門・部会合同運営委員会を実施することにより、効率的な管理体制を構築し、財務体質の健全化を図る。</li> <li>9. 上期に引き続き、部門・部会のイベント開催や諸事業の収益構造の改善を通じて部門の財務体質の健全化を図る。</li> </ol>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	支部協議会	担当	池田議長、河合副議長
-----	-------	----	------------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE_FES_2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ 特定費用準備資金の有効活用 (1.2)</li> <li>・ 部門・支部のあり方についての検討 (1.3)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> <li>・ 国際標準化活動の促進および表彰 (8.4)</li> <li>・ 地方活性化の検討（非会員地元企業との連携、など） (10.5)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>2 月 支部協議会準備会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各支部の新体制の確認</li> <li>・ 2026 年度支部協議会・各支部事業計画の確認</li> </ul> <p>①支部協議会 年 4 回開催</p> <p>②部門・支部合同会議 開催有無含め議論</p> <p>③各支部現況報告および支部事業計画確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部活性化に関する検討状況の情報共有</li> </ul> <p>支部活動活性化策について：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 支部・部門活動好事例の共有及びその方法</li> <li>- インセンティブ事業</li> <li>- 部門・支部合同会議について など</li> <li>- その他</li> </ul> <p>3 月 部門・支部合同会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 部門・支部の課題共有等</li> <li>- その他</li> </ul> <p>4 月 第 1 回支部協議会（SICE 事務局+Web）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む)</li> <li>- 支部活性化に関する検討状況の確認</li> <li>- その他</li> </ul>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月 第 2 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む)</li> <li>- 支部活性化に関する検討状況の確認</li> <li>- その他</li> </ul> <p>8 月 第 3 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む)</li> <li>- 支部活性化に関する検討状況の確認</li> <li>- その他</li> </ul> <p>9 月 部門・支部合同会議 (SICE・FES、拡大理事ワークショップ、部門協議会と併催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 部門・支部連携に向けた情報共有</li> </ul> <p>11 月 第 4 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 審議事項：各支部付議事項の審議</li> <li>- 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む)</li> <li>- 支部活性化に関する検討状況の確認</li> <li>- その他</li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	北海道支部	担当	花島支部長
-----	-------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ さいす学、フィジカル AI の社会実装に向けたコミュニティづくり（SICEFES、部門大会、会誌等での新規企画）(7.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> <li>・ 国際標準化活動の促進および表彰(8.4)</li> <li>・ 地方活性化の検討（非会員地元企業との連携、など）(10.5)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>支部会議</p> <p>第 58 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会（日本ロボット学会北海道ロボット技術研究専門委員会との共催）</p> <p>計測自動制御学会北海道支部主催特別講演会</p> <p>共催行事：日本ロボット学会北海道ロボット技術研究専門委員会特別講演会</p> <p>共催行事：複雑系マイクロシンポジウム</p> <p>支部運営委員会</p>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>協賛事業：ロボットトライアスロン</p> <p>協賛事業：大規模環境 3 次元計測と認識・モデル化 技術集中講演会</p> <p>産業応用セミナー</p> <p>支部運営委員会</p> <p>支部選挙</p>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	東北支部	担当	張山支部長
-----	------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>東北支部会議（1 月）</p> <p>東北支部研究集会（第 357 回～359 回）</p> <p>東北支部優秀発表奨励賞（各研究集会ごと）</p> <p>【後援事業】学都仙台・宮城サイエンス・デイ 2026</p>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>東北支部研究集会（第 360 回～362 回）</p> <p>東北支部優秀発表奨励賞（各研究集会ごと）</p> <p>【共催事業】電気自動車エコラン競技大会（8 月）東北支部特別賞（エコラン競技大会）</p>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	中部支部	担当	坂本支部長
-----	------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>(1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部会議</li> <li>・ 特別講演会</li> <li>・ 支部賞表彰</li> <li>・ 第 1 回運営委員会・事業委員会</li> </ul> <p>(2 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 56 学業優秀賞審査</li> </ul> <p>(3 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 56 学業優秀賞表彰</li> </ul> <p>(4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 2 回運営委員会・事業委員会</li> </ul> <p>(5 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中部支部技術講習会</li> </ul> <p>(1-6 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部研究委員会事業</li> </ul>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>(7 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 3 回運営委員会・事業委員会</li> </ul> <p>(9 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中部支部シンポジウム</li> </ul> <p>(10 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見学会</li> <li>・ 第 54 期支部賞審査</li> </ul> <p>(11 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 4 回運営委員会・事業委員会</li> <li>・ 顧問会議</li> <li>・ 研究発表&amp;企業交流会</li> </ul> <p>(7-12 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支部研究委員会事業</li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	北陸支部	担当	伊藤 (恒) 支部長
-----	------	----	------------

2026 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動 (FES、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>● 1～6 月</p> <p>1 月 新旧合同運営委員会, 支部会議, 特別講演会</p> <p>2 月 優秀学生賞の表彰</p> <p>3 月 日本機械学会北陸信越支部 2025 年合同講演 (共催)</p> <p>4 月 第 1 回運営委員会</p> <p>4 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 学生発表助成の募集</p> <p>4 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の募集</p> <p>6 月 計測自動制御学会北陸支部 優秀論文発表賞の募集</p>	<p>● 1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月 第 2 回運営委員会（メール審議）</p> <p>8 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 学生参加助成の助成決定通知</p> <p>9 月 電気・情報関係学会北陸支部連合講演会の主催</p> <p>9 月 北陸支部講演会（兼電気・情報関係学会北陸支部招待講演）の開催</p> <p>9 月 第 3 回運営委員会の開催</p> <p>9 月 優秀論文発表賞の表彰</p> <p>9 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の表彰</p> <p>11 月 第 1 回北陸支部講演会の開催</p> <p>11 月 第 4 回運営委員会の開催（メール審議）</p> <p>11 月 優秀学生賞の募集</p> <p>12 月 日本生体医工学会北陸支部講演会（共催）</p> <p>12 月 SICE 北陸支部 30 周年事業</p>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	関西支部	担当	三輪支部長
-----	------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月 (1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2025 年度 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会シンポジウム／計測自動制御学会関西支部 60 周年記念</li> <li>・ 支部会議</li> <li>・ 特別講演会</li> <li>・ 支部長賞授賞式</li> </ul> <p>(4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 8 年度 第 1 回運営委員会</li> </ul> <p>(6 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 8 年度 第 2 回運営委員会</li> <li>・ ISCIE・SICE 関西支部チュートリアル講座</li> </ul> <p>(随時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究会活動（設置申請があった場合）</li> </ul>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>(8 月)</p> <p>令和 8 年度 第 3 回運営委員会</p> <p>(10 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 8 年度 第 4 回運営委員会</li> <li>・SICE 関西支部見学会</li> </ul> <p>(11 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部長賞の募集</li> </ul> <p>(12 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部長賞選考委員会</li> <li>・令和 8 年度 第 5 回運営委員会</li> </ul> <p>(随時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究会活動 (設置申請があった場合)</li> </ul>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	中国支部	担当	笠 支部長
-----	------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信 (7.3)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第 1 回運営委員会 1 月中旬, Web 会議にて開催</li> <li>2. 支部会議（総会） 1 月中旬, Web 会議にて開催</li> <li>3. 主催講演会 1 月中旬, Web 会議にて開催</li> <li>4. 拡大運営委員会 5 月中旬, Web 会議にて開催</li> </ol>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第 2 回運営委員会（臨時） 9 月中旬，必要に応じてメール会議</li> <li>2. 計測制御シンポジウム 2026 9 月中旬，開催地未定</li> <li>3. 第 3 回運営委員会 11 月下旬，Web 会議にて開催</li> <li>4. 学術講演会 11 月下旬，岡山理科大学にて開催</li> <li>5. チュートリアル講演会 11～12 月頃，開催地未定</li> </ol>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	四国支部	担当	前山支部長
-----	------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分：主担当および副担当）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画(1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し(2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守(6.1)</li> <li>・ さいす学、フィジカル AI の社会実装に向けたコミュニティづくり（SICEFES、部門大会、会誌等での新規企画）(7.2)</li> <li>・ 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信(7.3)</li> <li>・ 国際標準化活動の促進および表彰(8.4)</li> <li>・ 地方活性化の検討（非会員地元企業との連携、など）(10.5)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>支部会議 1 月中、メール会議 議題：2026 年度の各機関の担当委員選出等</p> <p>第 1 回支部運営会議 1 月に香川大学または web にて開催 議題：2025 年度から引継ぎ事項等 香川大学 → 愛媛大学</p> <p>第 1 回支部学術講演会実行委員会 5 月中、メール会議 議題：実行委員会、プログラム委員会メンバーの決定、CFP 案と今後の予定等</p> <p>第 1 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 5 月中に開催 → 6 月に分担金を支給</p>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>第 2 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 8 月中、メール会議</p> <p>第 2 回支部学術講演会実行委員会 9 月中、メール会議 各委員の業務分担確認 9 月末に学術講演会ホームページを公開し、講演 申込を受付開始、発表目標件数は 60 件程度</p> <p>電気関係学会四国支部連合大会 9 月に開催 SICE 四国支部は共催</p> <p>第 3 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 11 月中に開催</p> <p>四国支部学術講演会 12 月中、愛媛県にて開催（担当：愛媛大学） ※優秀な若手発表者に対して毎年表彰</p> <p>第 2 回支部運営委員会 12 月中、四国支部学術講演会にて開催予定</p>	<p>●7～12 月</p>

## 2026 年度事業計画・実施報告

組織名	九州支部	担当	水本支部長
-----	------	----	-------

2026 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE の存在意義と「さいす学」を定義する。(0.1)</li> <li>・ SICE FES 2026 等に向けた部門・支部・委員会の柔軟な連携企画 (1.1)</li> <li>・ カンファレンス活動（FES、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と FES 化を見据えた見直し (2.1)</li> <li>・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)</li> <li>・ デジタル情報発信力の強化（オンラインイベント、ハイブリッドイベント、デジタル教育コンテンツ製作など）(7.1)</li> <li>・ さいす学、フィジカル AI の社会実装に向けたコミュニティづくり（SICEFES、部門大会、会誌等での新規企画）(7.2)</li> </ul>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>九州支部第 1 回運営委員会（新旧合同）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 九州支部第 56 期支部 顧問会議（新旧合同）</li> <li>・ 九州支部第 56 期支部会議</li> <li>・ 支部奨励賞発表等</li> </ul> <p>九州支部第 1 回事業委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SICE 九州フォーラム実施内容等</li> </ul> <p>九州支部第 2 回運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計報告</li> <li>・ SICE 九州フォーラム</li> <li>・ 九州支部学術講演会等</li> </ul> <p>研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制御理論と応用に関する研究会</li> <li>・ 各地区講演会等</li> </ul>	<p>●1～6 月</p>

2026 年度事業計画	2026 年度実施結果
<p>●7～12 月 SICE 九州フォーラム</p> <p>九州支部第 2 回事業委員会 ・九州支部学術講演会プログラム等</p> <p>九州支部第 3 回運営委員会 ・会計報告 ・来年度予算の策定 ・事業報告 ・今年度九州支部学術講演会 ・来年度九州支部学術講演会 ・来年度事業計画 ・来年度の支部運営</p> <p>九州支部学術講演会・学生発表交流会</p> <p>九州支部第 3 回事業委員会 ・来年度事業委員 ・来年度事業計画 ・学生発表交流会表彰，支部奨励賞，本部奨励賞推薦者等</p> <p>研究会 ・制御理論と応用に関する研究会 ・各地区講演会等</p>	<p>●7～12 月</p>